

2016年3月21日

日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長 長門正貢

(I)

皆さん、ご卒業、おめでとうございます。また、今日まで、皆さんを手塩にかけて育て上げて来られたご両親始めご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。ただ今ご紹介頂いた日本郵政の長門です。一言、ご挨拶申し上げます。

(II)

皆さん、今日まで、勉学やクラブ活動、或いは友人たちとの交流等を通じ、それぞれご自身の哲学なり人生観なりを創って来られたと拝察致します。そんな皆さんに些か釈迦に説法かと思いますが、今から45年前、昭和47年、1972年に、この同じ講堂で皆さんと同じように卒業式に参加した一人の社会人先輩として、大変僭越ですが、皆さんに幾つかアドバイスを差し上げたいと思います。学長のご挨拶と趣を異にし、些か Pragmatic になること、ご寛恕下さい。

1.

一橋の一つの Key Word は Captain of Industry、そして Global 或いは International です。本学の卒業生には随所でリーダーとして活躍して欲しい。

ご案内の通り、日本の GDP はこの20年、いや25年、約500兆円で全く成長していません。1990年、米国の GDP は日本のその僅か5割増しでしたが、現在は日本の4倍です。90年、中国は殆ど世界経済上、見えていなかったにも係らず、現在は日本の2.5倍です。もっと深刻なのは一人当たり GDP です。1995年、日本は世界第三位でした。今は世界30位あたりをウロウロしています。今後、日本国内に留まったままでは明るい将来はありません。皆さんにはそれぞれの道で大いに Global に、International にご活躍頂き、新しい Opportunity, 新たな Chance と向き合ってくださいと思っています。

Global Leader になって頂く為の、アドバイスの1点目です。福沢諭吉の有名な「学問のすすめ」の第17編に「人望論」というのがあります。福沢のここでの「人望」は現在の「人望」と少し定義が異なります。

人生生まれたからには、人に頼りにされるような人間になるべきだ、と諭吉は言うのです。其の為には3つの行動を推薦しています。第一に明るくなければいけない。ブスッと仏頂面している人には人は寄って来ない。明るく Open で快活な人に人は相談したくなるものです。第二に書き言葉も大事だが、それ以上に、喋り言葉の表現力を磨くこと。何を言っているのだから良く分からない、というのではコミュニケーションが取れません。自分の信ずるところ

を優しい表現で正確にキチッと表現出来るように鍛錬すべきだ、ということです。第三に人のえり好みをせず、人との交流については大いに他流試合をせよ、と言っています。あいつは嫌いだ、あれはダメだ、ではなく、誰とでも交流して自らの世界を広め見識や人格を深めてゆくべし。諭吉はこう言っています。

私は特にこの二番目の点が大事だと感じています。

日本語は勿論、今後は時間をかけて是非、英語を鍛えて頂きたい。エスペラント語はもはや不要です。いろいろ文法に誤りが有ったり、いろいろ妙なアクセントを引きずっている「ちょっと変な英語」が現在の国際語です。日本は不幸にして英語教育、とりわけ会話教育体制が不十分です。私が留学した1974年の頃、最も英会話が苦手だった国民が日本、中国、韓国等でした。しかし、現在の中国、韓国のリーダー達の英語能力はもはや日本を圧倒しています。

能力の問題ではない、技術、訓練の問題です。皆さんの能力を広く自由に存分に発揮する為に、皆さんが国際的に活躍する為のスタートラインに立つ為に、英語能力の鍛錬は避けて通れません。それぞれの方法で、本気での英語の勉強を、お願いします。

2.

二つ目のアドバイスです。

サラリーマン川柳でも、『サラリーマン、飯より好きな人事異動』とか、『人事異動、俺の趣味がまた変わる』、とか言われていますが、人事異動に一喜一憂しないで頂きたい。ビジネス界や官界、或いはマスコミ等、大組織に入って行かれる方々、今後、必ずしも自身の希望に沿う人事異動ばかりではないでしょう。否むしろ、思い通りの異動は殆ど無いと思って下さい。今後学界に入って行かれる方々にとっても、真正面から自身の研究課題ではないテーマを与えられることも多いと思います。

しかし、実は何でも良いのです。人生、本当に無駄はありません。私自身の体験を申し上げます。1972年、最初の職場は日本興業銀行・調査部でした。エコノミストが最初の仕事でした。しかし、GDPの伸び率何%かを当てるゲームで、直ちに失望し、脱出を図り海外留学した次第です。でも、人生、分からないものです。その後、大いに役立つようになります。だんだん肩書が上がって来ると講演等の機会が増えて来ます。そういう際、マクロ経済の骨格を十分理解している故でしょう、海外のエコノミストやトップビジネスマンとの議論で困ったことはありません。

その後の人事異動でも、当初、意に沿わないものが幾つも有りました。留学後、最初の海外勤務は米国テキサスの Houston 駐在員事務所でした。二人の秘書以外はボスの首席と自分しか居ない。花の New York や London 支店ではないと、当初は随分ガックリしたものです。しかし、そこで将来、海外業務に係ることになる、あらゆる業務を体験することが出来たし、且つ、世界のエネルギーセンターに駐在したことにより、骨の髄までエネルギー産業を理解し、また将来の自分のお家芸の一つ、Project Finance の基本を身に着けることが出

来ました。

また本店で憧れの営業本部に勤務した際、バブル崩壊後であったこともあり、暗い暗い、不良債権問題の主担当になりました。兵庫銀行問題とか、住宅専門金融機関問題とか、本当にシンドイ仕事でした。しかし分からないものです。後日、アジア通貨危機のど真ん中・通貨危機が勃発したタイのバンコック支店長になった際のことです。問題が明確に見えるのです。タイ国救済案件第一号は、私ども、日本興業銀行が主導して実施することが出来ました。タイ救国のヒーローになったわけです。

日本海海戦でロシア海軍を撃破した名参謀・秋山真之は、1895年の三国干渉後、日本とロシアの間に緊張感が高まっている最中に米国留学を命じられます。その際に友人に書いた手紙を一部ご紹介します。

『東亜の風雲漸く動き、形勢日々に相迫るの際、一人千里の異郷に読書するも、なかなか本意至極に候らえども、小生の本分はまた別にこれあり、ただ益々精到強勉、持って邦家他日の御用を相待つのほか、無し』

人生、本当に無駄はありません。今している仕事、何の迷いも不要です。今有る仕事に大いに打ち込んで、今しか学べないこと、今しか身に着けられないノウハウを存分に吸収して下さい。何の心配も要りません。

新しい職場で新しい仕事に打ち込んでいる内に、自分でも知らなかった、新たな自分がそこに居る筈です。才能は結果論です。様々な仕事を通じて眠っていた才能を、次々と、花開かせて頂きたいと思います。

私の作った会社川柳です。『人事異動、また才能が、花開く』どんな人事異動も大歓迎です。

3.

三番目のアドバイスです。

ノーベル文学賞も取った名文家・弁舌家のチャーチルが母校のハーロウ校の卒業式で Key Speaker として呼ばれます。名スピーカーで有名でしたから、50分から1時間は喋るかも知れないとホスト側は覚悟していたそうです。そして、本番。彼が舞台上がって来ます。一同、何を語るんだろうと注目して見えています。すると彼、極めて短いスピーチをし、さっさと舞台から降りて行きます。その中の中心的メッセージが、あの有名な言葉です。『Never give in. Never, never, never, never!』万雷の拍手だった由です。

毛沢東と鄧小平のことを著した Harrison Salisbury 著作の non-fiction, 「New Emperors」の第35章、「Forty plus Forty plus Forty plus Forty times Forty」をご紹介します。

「改革・解放」路線を打ち出した・現代中国の中興の祖、鄧小平、何回も人生の UP Down を経験しますが、文化大革命のさなか、65歳で何回目かの失脚をし、南昌に追放されます。日中はトラクター修理工場での旋盤工としての労働作業、午後帰宅して、ビル屋上から落とされ半身不随となった長男の足を按摩してから、家族で夕食を共にします。幽閉されていた小さな家には庭がついていました。食事後、鄧小平はその庭で毎晩ウォーキングを始めます。彼の足で一辺がちょうど40歩。正方形の庭を1周するのに40歩が4回。それを彼は毎日40周、計6400歩、約5キロ、速足で歩き続けました。これを見ていた娘たちは、『パパはまだ全く諦めていない!』と確信したそうです。

チャーチルと鄧小平に共通しているのが Never give up. です。よく「朝の来ない夜は無い」とか「出口の無いトンネルは無い」とかと言いますが、私はこれだけでは少し軽い、と感じています。不謹慎ですが、例えば夜の中に命を落としてしまうと決して朝はやって来ない。トンネルの中で歩みを止めてしまうと決して出口には辿り着けないのです。歩み続ける、どうしても生き延びる。これくらい本気でやれば何でも出来ます、何でも楽しくなる。決して諦めない本気を、徐々に養って下さい。

4.

4つ目のアドバイスです。

常日頃、同僚たちに『not NATO but Nike』と言っています。N, A, T, O, NATO は North Atlantic Treaty Organization、北大西洋条約機構、欧州の軍隊ではありません。No Action Talk Only. 議論ばかりして行動は何一つ無い。会議は踊り何も進まない。これではダメです。Nike は例のスポーツシューズです。あの会社の広告宣伝文句、ご記憶でしょうか。Just do it. というのです。そう、良いと思うこと、好きなこと、よく考えた上で方向感が出たら、ウジャウジャ迷わず、さっさと行動しようということです。行動が大事です。やってみて失敗したら、すぐ反省して、またやり直せば良い。犬も歩けば棒に当たる。Opportunity, 機会は行動することにより出現するものです。『〇〇を検討します』とか言うのは『やらない』と言っているのと同じです。Speedy な行動を心がけましょう。

5.

最後に一つ、Joke をご紹介します。ある人が天国と地獄を訪問出来ることになりました。まず地獄に行きます。意外と良いところでした。夕餉時。彼と彼女が二人で向き合って食事をしている。机の幅が約1メートル強。角切りサーロインステーキを食べています。ただ箸の長さが1メートル有り、肉を取り自分の口に持って行くのに少し不便ではありました。

次に天国に行きました。驚くべきことに地獄と全く同じ設定なのです。同じテーブル、同じ彼と彼女、同じ1メートルの箸、同じ食事。ただ一点のみ違いました。食べ方です。肉を箸で捉えた後、自分で食べるのではなく、その肉を彼は彼女の口に、彼女は彼の口に運んで

食事しているのです。これが天国でした。

この Joke、分かります。実は地獄も天国もあまり変わらない。少し知恵を使ってチームを組んで対応しようとする地獄すら天国になる、という寓意です。

皆さんも是非、素晴らしいチームを作って Global Leader として Lead して行って欲しいと思っています。

(III)

皆さんは、これから港を出て大海原へ大航海に出て行かれます。天気晴朗なれども波高し。幾つもの大波、難題が押し寄せて来ることでしょう。望むところです。頭を鍛え、体を鍛え、心を鍛え、志を大きく持って、皆さん自身が主人公の、これからの大航海を大いにエンジョイして頂きたい。

皆さんの大航海、幸多かれ、と心より祈念致しております。

Good Luck And Bon Voyage !!!

ご卒業、本当におめでとうございます。

以上